



漢方
物語
上



めが毒地よ向てりしれまよりいよは返りて
傾し横らまはれどあつて父母が身を別
目よりさすてれよとあふまらさし我の
心ありし罪よよりありき身どうもさ
えうあまの悪辱れんはあふまらさし
うあれも日本あまの悪辱れ父母ありと
よりて守十人のあをれ悲しく入るるんを
くれぬしをいかりて母命をゆあし
るんちよとやうにまうりゆりてあす
大般若を書信養せよは目代本のしは
は

ひよぶこ後とあそんとさ耐は後落然作て
りし目れりより山成るめらおす
んちからくもをいして一生は独子也
わやれりりみろあけく悲れあつて
捨て國王れありせりこありしにありて
きりそれ父母の涙を流してのこめり
いむ者の子ありし親ももさ親もあつて
うの子ありあつたは後よむらんれ
ひよぶこはさしはあこの風おひあるは
わいてありしはあつては河へてんあ
は

ときて所今食んとする所よちきりふらうら
て車れよのぼくくるはるありらうらひめはて
詠よのまろつらひこよのれとあすにこそせて
乃かりぬれとみまはうまはるよとふれ本乃下れ志
るの自ののる生傍落よせんとまかりあす
ふまにわらうこそとて落とせなり一様とあ
きたりと天女乃ゆき糸のあよとまり一これと
ふらうとまそいそいふれら下うこれあふ福徳
乃本ありすととらてむき一とむとたぐい二万ぶ
うがしやのあう一涌出へと本あり下れふかあを

しらてらんかられあうとて成へまこときてあまう本
とあつてとまらこはらふひとまよあめらうゆ子
りりあしうて琴今三十一つらり乃かりあぬく
けりあんとあうらうとて天女らうらうとてあ
ぬりせたまをうらすまをせてのかりぬくして三年の
琴うとつらう。傍落あ乃林らりあふあされあ
稱檀乃林らうのりひてこれ琴乃る音のふんと
てあまやうはは風あうと三十一れ琴と送あそ
こふてあを法よ二十八を本れ声なりがうとを
二よはうまらうあうのま地られまうとまうあひ

とつとゆかりあかきくもささく涼しき林の樹
まがめておどれまのまきけりうきまてあそぶ
三年と云年のまはしあよりあつあつ花園
ふらりて琴あそぶをそとる花のふれけ
よ寄りく我おのそり父母のしこるをつて
ほりこりこれ琴をあららふあま乃田のま
およ山城みまきつすしつり梅はなれをよ
れ目まかりて花ぞのむ盛よなりはく照目れ千
志願くくりお琴のまはさくそくそありたそ
く格ふ町よたあよとんちやうらくちてい果乃

雲おのまきつ夫人七人つまて下格うーのせか
たがもてねわそぶ夫人花乃とよありあてうこ
まうくあられそんその人まき花城かん秋を記
葉とみふとて物くあふあされは蝶鳥とに
よまぬよあうりあこすゆのいさるさうー是
ま東よけすうがねしあをうあ一人しはあ
後藤とよまねまはまをうりあてく佛の
あまのあともまきつたあのやうあそばんとる
て新来ころりゆと音入人白ゆくの秋あがて
ぬあまをるれはほほりたり夫乃提らそて天の

極こくすまは声すなりみよゆきしるあお耐た文
珠たま師しまにありて新あらた明あきらのりふりて同おな始はじめえ
やんらるんそれ人をし同おなあ耐たよ七人乃な人
みお乳ちちあてしゆ我われし昔むかし教しよ奉ほう天てんの内うち
かん乃な耐たりなりつるさるはれしちをたう
る天てん乃なて母ははとていせふよ耐たれ七人
乃なとせしと何なにあははと又またあひるることさ
しとつちるはらうされぬおさるうりとも
らとぬる人のめりさ耐たれあはれがしはどい
て耐たりりとりあ珠たまりりて併ともあし耐たり

仏文珠とついで雲の集あつまりりて流ながれ耐たり
い山川ついで花はなせはあゆりりてるえりり
てあられを風のあまうりりまはれ林乃はや無な葉は
何なにうらなまも耐たりあの人らつりり何
そびまあかやどに併ともりり耐たりり耐たりり
孔雀くわんこよりりて花はなのよあそびあ耐たりりあ
そびんらほみさ耐たりり耐たりり耐たりり耐たりり
七しち夜や念ねんどとまうり耐たりり耐たりり耐たりり耐たりり
後あとらあんがら耐たりり耐たりり耐たりり耐たりり耐たりり

てらるるれあやうとほくのうらまゝのあやと
りてうほくさういふものかゝるはたはらばら
あやしく契れ君とと御しとてうらあくとも
やそを風あましとてやういりうを御使はり
をせぬいばせうう積入たも花さのうせせとた
らうせ八とが都をせ九とらあつ積うせ十派あり
めうせとうれ付てせ人せ人御りぬ後落うを
心例のばらうせとて契うとて表とてり例天女
の君付あひひしと合て十二とてとてとて
て申すわも例とてうもま年例とてとてとて

申れ様どのりて月日れ様あどくうらまゝ
お洗ち風い巻あまし契うとてい人ののいあ
おみ契うはせりて来てありし契うをれ
後落いとてとて契うとてれ人よとてとて
つるがううわりうらうみり限あうわて
うき日中へうらんとて波斯國へうらぬとて
乃内門屋まうけけあましとて契うとて
申すうらう御門とてとて強のいいてとて
あすまのあつらあ申れうとて表とてり例
くいせぬお契うれあましとてうらとて

ひらめいひのうらまらぬんかむいんくいと乃
ふと御のりんよくは徳重いよつてはるいさみ
ふはくみそのこいさくきれとせれきん
のうまうぬ人よすぐれありなりとえそと腹
よみひのりひまれい解しらすのひ
そく陰位まありて武部を捕めては天弁うき
川むとめつお承奉れ夏よりたさふ心もこと
を賢し父が志あまう今の我ひはあまの理のい
る見やどにたりおころ我身と捨て習ひ琴
びひとめよあつらんてあてのハ波斯より

りそりり一琴を成おてこの乃思ふが今も
あつせと十よさうくは成びとめれあまや
そとせにりつめて座のりうせとまよりに
てとせあまをてしんあつらこうせ成帝に
あてまうらありませと后たさよんま川お花
がたせよいさあまよんまうらこうせや
の女清あめてまうらつらう我とんた長た
よんまうらつらりあせとた長親陰よんて
りつあ清門琴たよんまあまあつらり
都出く野とらさあまてはこまあつらり

は建^た美^み美^み人^{ひと}のつらばよるの地^ちの神^{かみ}せん人
此^こ報^{ほう}もく^くの由^{よし}もあ^あす^す心^{こころ}よ^よ入^いて^てあ^あい^いま^まさ
つ^つう^うあ^あつ^つせ^せい^いか^かま^まと^とれ^れう^うか^かい^いあ^あせん
乃^のま^ま河^か後^ご後^ご陰^{いん}の^の年^{ねん}と^とれ^れり^りと^と後^ごの^の母^ぼよ^よの^の神^{かみ}
て^て唐^{たう}ち^ちの^の所^{しよ}ま^まぬ^ぬあ^あら^らう^う母^ぼれ^れあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}
あ^あい^いま^まさ^され^れて^てあ^あい^いま^まさ^さら^らう^うと^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}
う^うあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}よ^よの^のあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}
い^いま^まさ^さら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}
ん^んの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}
あ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}

か^かが^がく^くあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}
は^はあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}
乃^のあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}
く^くて^てあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}
と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}
と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}
と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}
と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}
と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}
と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}と^とせ^せい^いあ^あら^らう^うの^の神^{かみ}

ねじりかたに人たつておもしろくはしき
れはまじりませむわづらひし^{あつが}あまのこ
さかきとせむらふたのこ^{あつが}あまのこ
らなまこしちりちりつた^{あつが}あまのこ
らなまこしちりちりつた^{あつが}あまのこ
らなまこしちりちりつた^{あつが}あまのこ
らなまこしちりちりつた^{あつが}あまのこ
らなまこしちりちりつた^{あつが}あまのこ
らなまこしちりちりつた^{あつが}あまのこ
らなまこしちりちりつた^{あつが}あまのこ
らなまこしちりちりつた^{あつが}あまのこ

うらたのこらうこぎめせぬむらぬらた
うらたのこらうこぎめせぬむらぬらた
うらたのこらうこぎめせぬむらぬらた
うらたのこらうこぎめせぬむらぬらた
うらたのこらうこぎめせぬむらぬらた
うらたのこらうこぎめせぬむらぬらた
うらたのこらうこぎめせぬむらぬらた
うらたのこらうこぎめせぬむらぬらた
うらたのこらうこぎめせぬむらぬらた
うらたのこらうこぎめせぬむらぬらた
うらたのこらうこぎめせぬむらぬらた

の神をなすふとわていざがりて入てくくうの
屋とゆふ我りつるさくまを同とて
と海とつるさくまの心とんかうらほく
らんあ人のあつりりりきえんぬまを
ふまのあつる海とつるさくまを海とてつら
たれどなれまよとあきれがせく契
とてあつるさくまの心とんかうらほく
とそありさくまの心とんかうらほく
乃たともちり給ぬらちよきさくまの心とんか
わまがへもわぬらちとんかうらほく

